3.声に出すこと

質問：わたしたちの生活の中で、また地域社会や団体の中で、福音の価値を公に表明する場面がありますか。そのために、何が助けと妨げになるでしょうか。また社会に対して、誰が教会を代表して発言しますか。

地域社会で教会が行うボランティア活動を通して、福音を表明する
信徒たちの結束した行動（経済的に厳しい日本人や外国人への援助）
ウォーカソンや炊き出しなどのボランティア・福祉活動
教会内で日常的に行われている各部のボランティア活動
教会のバザーに地域の住民も招くことで、教会を知ってもらい、関心をもってもらうきっかけになるイベント（クリスマスコンサート、右近祭り、ウォーカソンなど）でアピール
マザーテレサのように様々な社会的活動を通じて世の人々に信頼され、相手に好影響を与えられる
教会の行事等について、家庭や職場等で周知する

日本社会からの容認されたキリスト教の雰囲気（クリスマス、復活祭、教会形式の結婚式など）
教区や教会の印刷物、リーフレットなどの教会外への案内の手渡し
「こじか」や「心のともしび」もわかりやすい内容なので利用する
キリスト教を知りたい人は多いから、聖書の勉強会や講座を YouTube などで配信したらよい
小さくても目的を同じくする信徒が中心となり地域社会に働きかけてゆく
青年部が夏休みの１週間、古紙回収をするという活動があった
小・中・高校生も加わり、炎天下に回収を行い、ビラを事前配布することで協力・支援も多かった
自分がクリスチャンであると表明することが、齢をとると自然にできている
高齢になったら宗教の話も自然に出来るかもしれない

キリスト者であることを誇りに思って話をする
わたしが代表して職場や話せるひとには話す
クリスチャンであることをカミングアウトすることはやっている人は多い
自分が教会を代表していると考えると、まったくとんでもないと思ってしまうが、自分が信仰を持っていると周囲に表明しておく事は、苦しんでいる誰かが声をかけてくれるかもしれないので、大切。
自分の考え・学びとして、キリストの教えを話すことはあったかも知れない
信徒でない方との宗教談義を交わし、聖書の解釈等についてやりとりがある
地域や友人との間で、自分がキリスト者だと自然に表明している
職場などで自分がキリスト教徒であることを常に発信する
キリスト者だと伝えることで未信徒の方とキリスト教への思いや経験を分かち合えた
私は、自分がカトリック信徒だということを言える
葬儀、結婚式など冠婚葬祭時に福音の価値を表明している

信徒であることを公言し、日曜にミサに行く
地域の行事等が日曜のミサと重なるときにミサを選ぶことで信仰を表明する
生活の中で福音を生きる人の言動を通じて、福音の価値が他の人々に自然に伝わる
自分の生きざまを見せることが、福音宣教である
日々の暮らしにおいて家族や教会信徒同士が幸せに満たされていれば、それを見た人は福音を感じる
信徒の生き方そのものが福音の表明になっている、ゴミを拾うことも
個人的にできることは少ないが、日々誠実に暮らし、他者にご迷惑をかけず、できることを奉仕する
人間は完全ではないから、与えられているその人なりのできることを生活の中で小さな事でも実行する

こんな私でもキリスト者であるという証はカトリックに対する壁を低くする手助けになっている
一人一人の出来うる範囲で、自分以外の人とまず接し、尊重する
普段の生活において他人とどう接しているかが大事
各自が日常生活の場で信仰を生きる
信徒として生活をする中で、なにかが周りに伝わればいい
声に出すよりも生き方で示している人もいることが大事
信徒が増えていくように生活する

福音にあるように、困っている人を助け、人にやさしく、いつも喜んで奉仕することなどを実践すること
イエスの教えである愛と奉仕の精神で、困っている人を助け、他人にやさしく接する等の愛の行いを実践
生活の中で心身に苦痛を感じている人々と対話し福音を宣べ伝える、ミサが助けになる
日常の生活態度において、清貧高潔であることが、キリスト者としての価値をアピールできる手段
表明とか教会を代表しての発言という大きな世界ではなく、自分の生活の周り、家族や毎週顔を合わす生協メンバーの人たちから始めたい。
大声で福音を伝道するより、日々の生活態度で福音を示すぐらいしか出来ない
福音の価値を公に表明する場面はないが、置かれた場で気付かないうちに信仰が助けになっている
キリスト者として行動・言動に注意を払うことを心掛けたい
信徒だと言わなくても生き方や態度でにじみ出るものだから声に出す必要はない
キリスト者であることを公表しないが、自分の日々の姿を見せることが大切

社会の中で、キリスト者として生活し、ふるまっているか、見直すことから始める
言葉と技をもって、キリストを告げ知らせる観点から、現世的な事柄に従事しながら福音を表明する
声を出すことだけでなく、生活の中で神の思いにかなう生活を実践することで、声となり、助けとなる
仲良く話し、理解しあうように心掛けている
生活の中、地域社会や団体の中で、福音の価値を公に表明する場面がある
自分なりに自治会や幼稚園などを通して教会の価値観を話す機会はある
公に表明する場面はほとんどないが、個人的にはある
自治会などに参加したときキリスト者として意見を言う

地域で助けを必要としている人に声をかける時、教会共同体の仲間の一人として関っている
自治会の老人会で入院中の方のために祈るとき、宗教に関係なく心を一つにし、自分はカトリックだと公言
地域社会や団体等のなかでは表明する機会はないが、個人的関係においてはある
表明をすることが必要となる機会が助けである
隣人と話して出会うこと、家族の死を通して自ずとキリスト者だと知られている
社会生活を送る上でクリスチャンとしての態度が示されればメッセージは伝わる
直接神の話をするのではなく、行動を通してイエスの教えを伝える

キリスト者である私をありのままに受け止めてもらっていると感じている
福音書・キリストの価値観が助けになる
信仰は自分だけのものでなく、共に祈るところに神が生きていて働かれると知ると力になる
何気ない会話からイエスの教えが人に伝わっている、そのために、聖書を熟読する必要がある
福音を見ていると喜びがある、チャンスがあればみんなに言ってみたい
自分が信徒だと言ったら、偶然教会に行ってない人が声をかけてくれて信徒とわかった

自分が信徒であることを言うことは大事、十字を大きく切ること（を見せるの）もいい
職場で食事の時に十字を切るのを見た人が興味をもってくれた
十字架などを身に着け、待ち時間、移動中ロザリオ等同席者の平和を祈る
玄関に十字架があれば、来訪者が見て私がキリスト教だと分かってくれるかも
赦しの祈り、とりなしの祈り、困っている苦しむ人と一緒に祈りたい、秘跡にあずかり、司祭を助けたい
日曜日に教会へ行ってミサにあずかること、自分の行動告白をし、声に出すことで回りの人の理解を得る
言葉や行動を通してイエスのメッセージや価値観を伝えることは大切
会話の中で、知らずしらず間接的に伝えている
公にしていないけど、隠していない
キリスト者だと表明していないが、教会や信仰について聞かれ、シスターの書いた本の紹介や、近くの教会を教えたことがある
御心のままにという信仰をもっていることが、まわりに伝わっていればいいと思う

信仰の喜びをもって声を出す
自分が喜びを感じたことを人に伝えたいが、公にとなるとどうかわからない、福音は喜びがわいてくる
まわりの人々を大切にすることしか考えがおよばない
話したくなくても、人の意見を聞くだけでもいい勉強になる
生活の中で福音を公にすることはなくとも、小さなことでも社会に役立つことは隣の人に伝えられる
その人の必要、性格、日々の状況に合わせて、イエスのメッセージに触れる機会は無数に現れる
生活の中で、地域社会の中で、自分がキリスト者としていつも愛と奉仕の精神で生活していることが大切
福音として語られる言葉をそれぞれ自分の言葉に翻訳して語れる力を付けること(例　ケセン語訳)
様々な機会を利用して、言葉を交わし、行いを通してキリストを伝える
機を逃さず、自然に口をついてでてくる言葉、勧めたい読書、すべてがイエスからのメッセージ、価値観
福音を話す機会がなくても、福音に生きることで、様々な機会で行為、言葉、思いで自然に周りの人に伝わる
家庭内での家族同士、地区の自治会活動に参加してコミュニケーションをとる等

社会で起きていることに関してお互いに分かち合い、その中でイエスのメッセージを自分なりに受け取る
社会にメッセージを伝えることにためらいがあり難しいが、行動を通じて伝えることはできる
神を知らない人からあの人の行いをまねたいと自然と思われるように生きることが福音宣教
信徒を見て「イエスはどんな方か」と興味を持って、聞いてもらえるような生き方をする
仕事をする上で、キリストの教えを伝えるのではないが、自分の行動に心掛けていることがある
個人として自分の家庭や職場で福音の価値を表明していくのはできる
公に表明することは難しいが、親しい人には、会話の中にそっとメッセージを含ませている
日頃からの信頼関係が大事で、信頼があれば真剣に聞いていただける
信頼関係があれば信仰体験を分かち合える、それが大切
日々の行動に丁寧な慎みがあれば、人が聞きに来て、誠実な対応で信頼され、福音の一端を語るだけ

社会に対して、すべての信徒が教会を代表している
一人ひとりが教会代表として、神からの語りかけや行いを実践できるように発信する
司祭を含めて、教会に集う信徒一人一人に委ねられている
必要な時にイエスのメッセージや価値観を実践する
人間の尊厳、命の大切さ（中絶・安楽死・中絶ピルに反対する）において信仰を表明する
信仰を意識した日常生活や、聖霊の導きと自らの勇気
出会う人一人一人に神の愛が届きますようにと、祈る心をもってともにいる

信徒の高齢化で、ウォーカソンが実施されていないが、地域社会へ福音を証する役割を果たしていた
お盆前に聖母行列をし、村を半周している（現在は１０月）
郡山には「流配者の慰霊碑」があり、地域の人たちに教会をアピールすることができる
公民館講座や街のサロンで「新聞とビデオとおしゃべりの会」を開き、福音的喜びの声は伝えている
子どもたちに外国籍の信徒が「神の話をするのは教会だから教会に行こう」と話した
心に残った書物を分かち合ってメッセージや価値観を伝えること

幼稚園では信徒でない園児も多く、保護者も含め福音の価値を公に表現できている
カトリック幼稚園の保護者の親睦会や、学び、祈りなどの交わりを通して福音的なものは広がっていく
カトリックの教育施設はキリスト教の価値観などを刷り込んでいて、影響力がある
建学の理念を様々な機会に発信し、宗教の授業などで福音的価値を生徒に伝え、教員対象の研修会開催している
クリスマスミサ、教会でのコンサートなどを通して呼びかける
他宗教でも信仰を持っている人とは互いに伝えやすいし、理解はしやすい

〈妨げ・課題〉

教会があって、教会に来たら祈れるということを常に知らせ続けることが必要
教会が元気で楽しそうで幸せそうなところだと外から感じられるようになる
評価を求めない福音が本物である
教会は地域とのかかわりが少なくなっている
信仰の経験と共にその知識と、立場を自覚し理解した取り組みが必要である

聖書の知識が豊かであるよりも、相手の胸に響くことが大切だ
聖職者、小教区の役員、責任ある人達、引っ張っていく立場の人たちには必要なイロハがある
キリスト信徒として向上し、世間から信用される人間になる
家庭人として、子供、孫たちに、信仰を伝えていく必要があり、信仰の障害になっている諸々の情報を見抜くことを教える必要がある

福音メッセージを伝えるためには、私自身が福音によって救われ、喜んでいることが前提
私の内にキリストがいてくださり、キリストに倣って生きる努力をすること、祈ること
イエスのように、自らの与えられた環境で一所懸命にはたらき、神の現存に生き、常に喜びを持って生活する
重病になり強い不安に陥った人の心に寄り添うための慰めを、多くの人に向けて発信する
自分自身の思いについての内省
他人を変えたり、責めたりするのではなく、自分が十分に生きることが大切

必要な研修や勉強が必要
聖書に学ぶことを優先し、今あることに感謝し、声に出して表現できる雰囲気が必要
福音の価値を表明するということまでできているかは不明
福音の価値を伝えるのには知識が必要
福音の表明の内容は何かわかっていない
教会のこと、キリストのことを、きっかけを掴んで話していけるように努力すべき

キリスト教、カトリックに興味がある人は多いが、誘い、声かけの必要あり
個人的には関心ある人以外、宗教は避けられるので、クリスマスや復活祭で知ってもらうことから始める
教会の外に対して、キリスト者として大きいことを話そうとしているときがある
信徒数が減少する中、活動を発起する人が限られて、同じ人ばかりが携わると、継続できなくなる

信徒だとは言えても、公に対しては壁がある
信徒であることは公にしても、行動が出来ない
信仰している人という立場では、地区でいろいろなことを言われる
今まで声に出してみたが、小さな声は聴かれず、もみくちゃにされた
活動の目的を理解せず、活動自体が目的となれば、協力者は増えない

神からの恵みやよろこびを語りたいが、そのチャンスがつかめていない
今回のような感染症が、人が集まる行為自体をストップさせてしまう
異なる考えを表明できない社会が妨げである
福音を宣べ伝えることについての分かち合いはできていない

宗教的価値に代わる物事が支配的な社会の現状
日本では社会に向けて福音を伝えにくいが、信徒各自が伝えられるようになりたい
信徒であることを公表したことでよかったと思う体験をわかちあう
地域社会や仕事の関係で福音の価値を公に声に出して表現する場面はほとんどない
福音の価値を公に表明する場面はないとしか言えない
社会に対しての発言は機会がない
地域社会や団体の中で自由で真正な対話はほとんど何も出来ていないのが現状
福音の価値を直接的に伝えると拒否する人もいるので、考えてもらうための〈視点〉を伝えることが大事
キリスト者だということで、結果的に評価されることが大事、意識しすぎると敬遠されかもしれない
マイノリティのキリスト教の信徒が福音のこと、ミサの話をする機会は少ないし、遠慮してしまう

日本の社会では、カトリックはマイノリティのため表明する自信がない
声高に福音の価値を表明することにためらい、地域に受け入れがたいのではないかとしり込みする
キリスト者であることを公表することが、差別につながる恐れを感じる
日本の社会では宗教を信じている人と距離を取る人が多い。変わった人と捉えられがち
自分自身の中にある孤立へのおそれ、日本社会にある宗教風土でのマイノリティの置かれている側の弱さ
新聞、マスコミの放送の内容でも神道や仏教の考えが当然な風潮

地域社会で積極的に福音宣教をしていく必要があるが、行動が伴わない言葉では人の心に響かない
地域性、日本社会の価値観が声に出すことの妨げ、教会に対する住民の意識が壁になる
助けとなるのは確固たる信仰だが、日本の宗教事情では難しい
地方は同調圧力が強いように感じるので、地域の行事に参加を断って生活するのは生き辛い
地域社会や友人関係で宗教のことを話題に出すのはタブーだという暗黙のルールを感じている
日本では多くの方が宗教に無関心で、話題にするだけで腰が引けてしまうような反応

教会の外でキリスト教について話す機会はほとんどない
社会に向かって声に出すのは難しく抵抗がある
日本では地域社会で声をあげていくことはなかなか難しい
日本では、教会の外で世間の人と教会や聖書について話をすることはほとんど皆無
人との交流では、信仰の話はなかなか難しく表面的なことしか出来ない
仏教の家に育ち、小さな町で家々は仏教、神道を受け継いでいるので、自分がカトリック信徒であることは家族しか知らず、信徒であることを公言することは難しくその必要もない
宗教のことは教会外で話をしない
日常生活のなかで、声を出すことは難しい
身近な友人には話せないし家のまわりの住人にも話せない。話したらお金をとられると言われた

社会人は、政治と宗教の話を控えた方がよいと先輩から教えられる
仕事仲間、地域社会の中ではほとんど福音の価値を表明できていない
人それぞれの考えがあり、政治や宗教のことで対立すると収拾がつかないと考えられている
近年の日本社会でも、キリスト教徒であることに配慮がしてもらえないことも多い
よほど親しくなって宗教に興味がある相手でなければ教会のことは話せない
信徒であることは隠してはいないが、自分が信徒だと言わざるを得ないときしか言わない
個人的には話しても、公に表明することはないし、機会がほとんどない

妨げは、自分の立場が悪くならないようにという、構えた姿勢
信徒であることを公表して、誤解されたくないという感情が妨げ
生活の場面で福音の価値を友人に伝えて利したことはない、話しても変な人だと思われるだけ
信徒であることで、キリスト教全体が悪く言われることが嫌
自分の偏見や劣等感が妨げになっている

キリスト者であることを強いて隠さないが、求められない状況で福音の価値を表明することはない
キリスト者であると伝えても、福音の価値を声に出して言うことはない
できること……「正しい信仰である」と確信出来るようにする、聖書を勉強して確信出来るのか疑問
声に出すのは不得意、宗教的なことを少数のカトリック信徒が声に出すのは難しい

キリストとともに歩んでいる自覚があるかどうか
日本人の若い世代は特別なことがない限り、宗教を必要としていないようだ
福音の価値を声に出すこと、社会に伝えていくことは難しい
福音の価値を言葉で相手に伝わるように表現することが難しい

信徒としての未熟から間違ったことを伝えることの不安や消極性
神を言い表すことが難しい、信仰のレベルが低く、信仰が弱いから
カトリック信徒らしい振る舞いが出来ていない後ろめたさがある
日常生活の中で福音を自分の言葉で誰かに伝えられるほど理解をしていないのでできない
何をどのように伝えるべきなのかわかっていない
強制すると警戒される

他の人に嫌われ、仲間外れにされる
恥ずかしさや、仲間外れにされるかもしれないという恐れが妨げ
職場での立場を守るために信徒だと表明できない
福音宣教はセールスマンとは違うという司祭のことばが心に残っている
宗教の話をすると、興味がない･わからない･入信を勧められる恐怖感などの反応がある
勧誘が熱心な新興宗教団体と同じようにとられたくない思いがあるため、目立ったことはしない

オウム真理教のサリン事件などから、宗教に対する日本人の警戒心もある
オウム真理教事件以来、信仰や宗教について話題にすることがはばかられる
地域社会で公に表明する際に宗教にアレルギー反応を示す人は昔よりも増えている
仏教徒でなければならないという価値観が根強く、信徒であることは声に出しにくい
キリスト教が特殊な宗教、カルトと同列と見なされ、福音化は困難で危険も伴うこともある

近隣の方に無用の反感や疑惑の目を向けられれば、地域で生きていけなくなる可能性がある
過疎地の悩みもあって地域社会での声を出す機会は少ない
公にすべき福音の価値を司祭から聞いたことがない
カトリックの信仰、教会と他の宗派や宗教の信仰との違いや、引きつけるものが何かわからない

どの宗教でも祈りは同じ、信仰はその人のもの、ＮＨＫの宗教の時間で教えている内容は同じ
仏教が根強い土地柄で、自分がカトリックであることすら言いにくい
キリスト教を伝えるとき、日本の伝統文化、特に仏教が根強い地域では難しい
他宗教であっても信仰を探っている人と理解はしやすいが、相手の信仰を変えられるかは自信がない
他の宗教を信じている人もいる社会で、なかなか福音の価値を公に表明することは難しい

福音を中心に、人としての生き方、様々なボランティア活動の取り組み内容も発信すべき
募金を教会でやっているが外に出て一般人を対象に募金活動することもいいのでは
カトリックは世の中に何を提供できるか、日本の信徒は自分の宗教観を示さずに生活している
子ども食堂とかもっと身近に活動している NPO などに参加する

原発廃止･死刑廃止などが司教団から発せられているが、司祭の説教の中で聞いたことはない
カリタスジャパンなどが他の団体と共同で募金等を行うことがよい
聖書のメッセージと SDG’s の項目と絡めて社会に伝えればよい

ほかの宗教を大切にしている所へ、カトリックも入って行って声を出すことが必要
信徒であることを隠して生活するのではなく、信徒であることを表明
教会に来ている人と来ていない人にあまり違いはないと思う
教会の内側にこもっている
信仰だけではなく教会の仲間と話がしたいと思い、声を出しても受けとめてもらえない

思いやり、自己犠牲、世界平和のため声を上げること
自分自身が強い思いを持つこと、マスコミへの発信やイベント開催など
教会から外部に向けた掲示板はミサ時間など信徒への情報提供になっているが、新教、仏教系の掲示内容のように「教え」など市民に向けた内容もあった方が良い
外部へのアピール（お知らせ、聖書の言葉などの掲示）の方法を検討する。
ロシアのウクライナ侵攻について、カトリック教会としての声明を一般の人々に伝えたらよい
内戦を経験した方は、戦争は勝ち負けに関係なく人が傷つくだけ、と言っている

教区からマスコミや新聞社、ＳＮＳに対してメッセージを発信すべき
コロナ禍で始まったオンライン講座などを利用
ブログ、YouTube、SNS など、自分で発信することは難しいですが、見ることはできる
教会の掲示板を活用する
敢えて挙げれば教会前の掲示板とHPが該当するかと思いますが社会への効果は不明
テレビ番組で宣教があるが、押しつけがましいと考える人もいる

自分の宗教を他人に押し付けない、信仰の自由を尊重する
成人洗礼の自分は押しつけがましいと感じると、抵抗を覚えた
私の教会へと相手の信仰を変えることはむずかしい
相手をリスペクトした中で、話すことが大事、押し付けたり力んだりせず、相手を受け入れる
他宗教布教の訪問者にも、話を聞きつつ、いつか思い出してもらえるよう教会の話をする

宗教観、価値観、地域性の違い
コロナ禍のため、子どもたちの活動の場がない、例えば侍者奉仕活動など
共同体として活動するためにはお金と人が必要になり、現実的な困難を感じる
神の芸術としての聖人を心から増やすことが、社会に福音の価値を表明する助けとなる
イエスが現代の報道を見たら絶句されるだろうか、むしろ同感するかもしれない

訴えたところでなにもかわらないというあきらめがあるように思える
耳を傾ける姿勢がないために、誰からも何の意見も訴えも出てこないことも問題
司教や司祭が発信すべき

〈代表者〉

地域に自分が出した意見、それは教会を代表していることになる
社会に教会を代表して発言するのは、信徒一人一人が代表として、その役割を担っている
家族がキリスト者でないので、家族にとって私が教会との接点であり教会の代表である

〈その他〉

教会が交わりの場にならない状況で、一人でいても救われるという発想が必要